

若い方でも油断禁物！ 気を付けたい難聴

健康エクспレス No. 54

お年寄りには声や音が聞き取りにくい方がいらっしやいます。また、若い方でも突然耳が聞こえにくくなることがあります。今回は「難聴」についてご紹介します。

難聴とは？ どのような原因で起こるのか？

(1) 難聴とは

耳の中の器官が正常に機能しなくなり、耳が聞こえにくくなる障害です。難聴というとお年寄りに起こりやすいと思われています。しかし、若い人気女性歌手(29才)が難聴になり、さらに聴力をほぼ失ったという報道がありました。このように若い方でも、難聴になることがあるので注意が必要です。ここでは生まれつき聴覚に障害のある方のケースを除いてご説明します。

(2) 身近に起こりやすい主な難聴

難聴にはさまざまな種類がありますが、私たちに起こりやすい難聴は次のとおりです。

① 老人性難聴

加齢のため耳の神経が老化して、聴力が低下するものです。初期には高音域が聞こえにくくなり、症状が進行すると中・低音域まで聞き取りにくくなります。

② 騒音性難聴

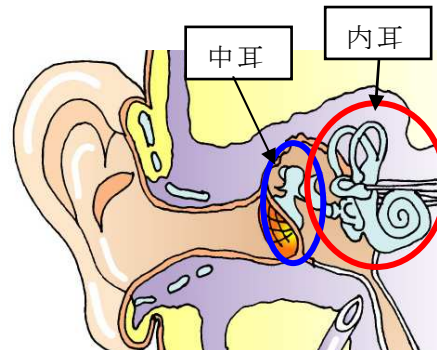
工場や工事現場などの大きな音の中で長年にわたり働いていた方に多く見られます。また、イヤホンやヘッドホンを使用し、大音量で長期間音楽を聞き続けた場合にもなることがあります。初期には自分が騒音性難聴であることに気付かない方が多くいます。

③ 突発性難聴

突然起こる難聴です。通常、片耳だけに起こります。上記の女性歌手のケースは「突発性内耳障害」と報道されていましたが、突発性難聴に含まれます。この難聴は30～60才代の幅広い年齢層に起こります。ストレスや疲労で体調を壊したときに起こりやすいと言われていますが、原因は正確には解明されていません。

④ その他の難聴

耳の病気により難聴となることがあります。例えば、細菌が耳の「中耳」という部分に入り炎症を起こす中耳炎はその代表です。また、鼓膜が損傷を受けたときも難聴となります。耳垢も難聴の原因となることがあります。



音が聞き取りにくいと感じたら、まず医師に相談を

(1) 難聴の診断

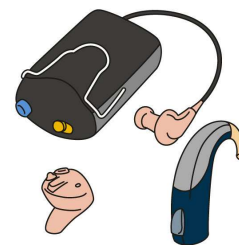
難聴の診断は耳鼻咽喉科で行います。耳鏡(じきょう)という器具で耳の内部を観察したり、「純音聴力検査」などを行います。後者は周囲の雑音を遮断した防音室で、大きさや高さの異なる音聞き、聴力を診断するものです。必要があれば、CT(人体の周囲からX線を照射し、投影データから人体の断面画像を得る装置)などの画像による診断を行うこともあります。また、お年寄りの場合は、必ずしも老人性難聴とは限らないので、医師による診断を受けましょう。

(2) 難聴の治療と予防

老人性難聴や騒音性難聴の場合、聴力を回復することは難しいことが多く、補聴器により聴力を補助することが行われています。

突発性難聴の治療にはステロイド薬(炎症を抑える効果が強い合成ホルモン剤)などの薬が用いられることもあります。突発性難聴は初期であれば治療の効果が高いので、耳の聞こえが突然悪くなった場合には、すぐに医師の診断を受け、治療を受けましょう。そのまま治療せずにいると、聴力の回復が困難になることがあります。他の難聴の治療では、内耳の血行をよくすることで聴力の回復を目指すために薬を使います。外科手術で難聴が改善されることもあります。

騒音性難聴の予防には耳栓などで耳を保護することが大切です。突発性難聴はストレスとの関係が指摘されていますので、日常生活でストレスを解消することが予防になります。



皆様の安心と安全のブレイントラスト(専門顧問グループ)》

株式会社ヤシロエージェンシーリミテッド 担当: 八城一浩

〒107-0052 東京都港区赤坂3-1-2 TEL: 03-3582-4511